

近江八幡図書館 現状と課題について

1. ブックスタート事業 平成17年度～

★4ヶ月健診時に3冊から1冊選んでもらい、絵本の読み聞かせを通して、優しい言葉かけの大切やスマホに子守をさせないでとメッセージを伝え、1冊絵本を読み、ファーストブックを選んでもらいブックパックに入れて渡す活動を実施。

平成29年から健診時に希望者へその場で貸出カードを作成し、図書館へ来館しやすい環境づくりを行っている。

（令和元年～令和3年度まで健康コロナ禍により中止）

	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4
登録率 (%)	5.4	5.4	22.8	38.4	54.3	62.5	46.4	31.5	34.5
おはなし会参加者(人)	691	707	1,980	1,710	1,435	1,290	263	93	510

【現状】

図書館では、乳幼児からの読書普及の一環として、平成17年度から4ヶ月健診時に一人1冊ファーストブックに入れて、手渡す取組を実施してきました。現在、19歳以下で4ヶ月健診を受診した人は、各家庭に1冊絵本がある状況です。

平成29年から4ヶ月健診時にファーストブックを手渡すのと同時に、希望者に対して図書館の利用カードをその場でつくる取組を実施したところ、登録者数は増加しました（コロナ禍で中止した令和2年度、令和3年度を除く）。

【課題】

おはなし会参加者と同様、登録者数もコロナ禍以前に戻すのが課題です。

ホームページや広報等で広く宣伝すると同時に、おはなし会自体も保護者同士がつながれる場としての工夫を行います。

2. 武佐学区への読書支援 平成29年度～

図書館からの距離がある武佐学区では、計画前の平成28年度0～6歳児1人当たりの貸出件数は1.0冊と市の平均に比べ、低い数値となっていました。また、小学校へブックトークに訪れた折に、「図書館に行きたくても自分ではいけない」という児童の声を聞き、図書館から出向く館外貸出を実施することにし、就学時まで聞く姿勢や乳幼児の読書習慣を身に付けてもらうことを目標に掲げ、武佐こども園への読書支援を重点的に実施しました。

令和3年度に読書支援は終了しましたが、気軽に本を借りることや本に触れる機会を継続するため移動図書館事業を稼働させました。

学区別児童人口一人当たりの貸出冊数

学区	0～6歳				7～12歳				13～18歳
	H28年度	R2年度	R3年度	R4年度	H28年度	R2年度	R3年度	R4年度	R4年度
八幡	7.1	12.9	16.1	17.2	14.7	17.1	21.2	25.7	4.1
島	1.9	4.2	7.1	6.0	6.7	6.6	8.5	13.2	0.8
岡山	4.0	9.9	11.6	12.1	20.7	15.4	15.3	15.7	4.1
金田	6.0	10.7	13.9	11.7	16.0	15.2	18.1	19.0	3.6
桐原	4.4	8.5	10.9	10.2	11.4	12.5	14.5	14.4	3.1
馬淵	1.6	5.8	8.2	7.1	8.2	5.1	19.0	20.0	1.3
北里	5.0	9.2	16.2	10.5	10.6	8.0	10.0	12.9	3.6
武佐	1.0	8.2	14.0	16.0	7.0	5.4	9.7	10.1	2.6
安土	5.3	13.7	12.0	9.9	9.3	12.6	18.2	17.9	2.6
老蘇	2.6	9.8	11.1	15.3	9.5	8.9	13.0	11.6	0.5
市全体	4.9	10.4	12.8	11.9	13.1	13.1	16.3	17.3	3.2

* 沖島は島に含む

【武佐学区への読書支援】 平成29年度～令和3年度

	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳
親子向け（通園）おはなし会＋貸出 年2回 【7回／10回 244人参加】	○	○	○			
親子向け（在宅）おはなし会＋貸出 年4回 【8回／20回 166人参加】	○	○	○			
子ども向けおはなし会＋貸出（3歳～5歳児） 年14回 （1・2歳児）1歳児 年1回 2歳児 年5回 【34回／100回 650人参加】		○	○	○	○	○
図書館見学＋貸出（4歳児/5歳児） 八幡館・安土館 各年1回 【12回／48回 373人来館】					○	○
団体貸出 【129回 2,811冊】	○	○	○	○	○	○
移動図書館車での貸出【令和3年～ 10回285冊】			○	○	○	

武佐学区読書推進計画における利用状況の推移

	実施前 H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	5年後 R3年度 (目標)	令和 4年度	令和 4年度 市内平均
登録率 (0～6歳)	17.4%	66.4%	76.1%	75.5%	74.2%	68.4%	前年度比 100%以上	74.9%	69.1%
一人当たり 貸出冊数 (0～6歳)	1.0冊	4.9冊	7.0冊	9.4冊	8.2冊	14.0冊	前年度比 100%以上	16.0冊	14.0冊
登録率 (親世代 19～49歳)	31.7%	34.6%	38.4%	38.4%	43.2%	46.0%	前年度比 100%以上	46.4%	66.1%
一人当たり 貸出冊数 (親世代 19～49歳)	3.0冊	3.0冊	2.9冊	2.5冊	2.2冊	3.1冊	前年度比 100%以上	3.8冊	6.2冊

【現状】

武佐学区の読書支援のなかで、こども園への継続的なおはなし会と個人貸出を徹底して行った結果、計画前には0～6歳児の一人当たりの貸出冊数が1冊だったものが、計画終了後には14冊となりました。計画終了後も移動図書館車での巡回とおはなし会を実施し、令和4年度は0～6歳児の一人当たりの貸出冊数は16冊となり、市内平均を上回りました。

移動図書館車での貸出は定着し、本を借りた後、各自お気に入りの場所で絵本を読む光景が見られ、読書の時間を楽しんでいる様子が見られるようになりました。

【課題】

親世代は平成8年度からあまり変化はなく、若干増えているが市内平均から見ると登録率、一人当たりの貸出冊数とも数値は低く、課題が残りました。移動図書館車への武佐コミュニティセンターの巡回日は、平日の午前中ということもあり、子育て世代が利用しやすい時間帯等、今後検討していく必要があります。

3. 本のまち動く図書館事業 令和3年度～

図書館では、武佐読書支援の結果を受け、

- ① 本との出会いの機会を市内の子ども達が等しく持てる環境づくり。
- ② 子どもと本を橋渡しする大人（司書）が必要であること。

この2点が重要であることから令和3年度から移動図書館車を稼働しました。

令和5年度から稼働した「はちっこぶっく号ミニ」は、感性や考えるもと、生活習慣のものが形成される乳幼児期に絵本をたっぷり味わい、楽しんでもらうために図書館から遠い、就学前施設を段階的に巡回します。

最終的には公立・私立園問わず、就学時には同じ絵本体験ができていることを目指します。

学区別児童人口一人当たりの貸出冊数 (再掲)

単位：冊

学区	0～6歳				7～12歳				13～18歳
	H28年度	R2年度	R3年度	R4年度	H28年度	R2年度	R3年度	R4年度	R4年度
八幡	7.1	12.9	16.1	17.2	14.7	17.1	21.2	25.7	4.1
島	1.9	4.2	7.1	6.0	6.7	6.6	8.5	13.2	0.8
岡山	4.0	9.9	11.6	12.1	20.7	15.4	15.3	15.7	4.1
金田	6.0	10.7	13.9	11.7	16.0	15.2	18.1	19.0	3.6
桐原	4.4	8.5	10.9	10.2	11.4	12.5	14.5	14.4	3.1
馬淵	1.6	5.8	8.2	7.1	8.2	5.1	19.0	20.0	1.3
北里	5.0	9.2	16.2	10.5	10.6	8.0	10.0	12.9	3.6
武佐	1.0	8.2	14.0	16.0	7.0	5.4	9.7	10.1	2.6
安土	5.3	13.7	12.0	9.9	9.3	12.6	18.2	17.9	2.6
老蘇	2.6	9.8	11.1	15.3	9.5	8.9	13.0	11.6	0.5
市全体	4.9	10.4	12.8	11.9	13.1	13.1	16.3	17.3	3.2

* 沖島は島に含む

移動図書館児童サービスポイント 貸出冊数前年度比

	R3年度(冊)	R4年度(冊)	前年度比(%)
武佐こども園	517	585	113.2
老蘇こども園	305	535	175.4
馬淵こども園	256	462	180.5
北里幼稚園	677	772	114.0
北里保育園	—	600	—
島小学校	—	1,116	—
北里小学校	1,013	518	51.1
馬淵小学校	1,871	2,110	112.8
武佐小学校	866	811	93.6
老蘇小学校	689	788	114.4
八幡東中学校	262	269	102.7
八幡西中学校	344	244	70.9
計	6,800	8,810	129.6

【現状】

年齢別、各学区の一人当たりの貸出冊数については、移動図書館車を稼働し、全域サービスに努めたところ、大きな開きはなくなりました。

【課題】

13～18歳の読書離れと言われている年齢について、手立てが必要であると考えますが、電子書籍等を利用していることもあり、本を読んでいないとはいえない状況です。現在、図書館から遠い中学校2校へ移動図書館車を巡回させていますが、全中学校へ巡回するには、中高生向きの本に精通している職員体制を整備することが課題です。

4. その他

(1) 図書館への寄附について

【現状】

村松報恩会様からは、児童書の充実のために平成元年から主に小学校の学校図書と図書館へご寄贈をいただいております。合併後は両館共、調べ学習に使用する図鑑や事典、知識の本、シリーズ本等、通常の前算割では購入しにくいものを購入しています。

また、令和3年度は、近江八幡ロータリークラブ様より、移動図書館車用図書購入費100万円をご寄附いただき、はちっこぶっく号の児童図書を整備しました。令和5年度は、近江八幡管工事協同組合様より10万円のご寄附いただきました。

【今後の取組】

児童書の充実を図ってほしいとの寄附者のご意向に沿うよう、現状どおり通常の前算割では購入しにくい図書を揃える方向で対応したい。

また、はちっこぶっく号ミニの児童図書についても日頃は購入できない大型絵本や紙芝居等を購入して、巡回している園を中心に貸出を行い、要望があれば、その他の園や一般利用者へも順次、貸出を行うなど広く市民への活用を図りたい。

(2) 図書購入予定について

読書活動推進事業での児童書購入前算は、令和5年度は約390万円。毎週出版される児童書の新刊やリクエスト本、外国語の本や絵本、また買い替えが必要な本等、計画的な図書購入を図る。

移動図書館車はちっこぶっく号の児童図書の購入前算は、213万円、はちっこぶっく号ミニについては220万円の前算を計上している。

はちっこぶっく号での小・中学校の図書の選書については、利用者のニーズに合わせ、近江八幡図書館、安土図書館の選書と比べ、より書店に近い選書を行い、いつ来ても読みたい本が置いてあるように工夫し、継続した読書につなげていく。

一方で、はちっこぶっく号ミニは、定番絵本や書評等で紹介された絵本等、絵やおはなしの内容がしっかりした定評のある絵本を選定する予定である。また、絵本の貸出だけでなく、ストーリーリングや読み聞かせを同時に行い、おはなしや絵本の世界を楽しむことにより、想像力を養い、感性の元を築けるよう取組んで行く。